

「公衆衛生」第80巻総目次

2016年(第1号～第12号)

数字は通巻頁数、()は号数

特 集

◆ 80巻1号「自治体行政と公衆衛生」

日本の自治体行政の変遷・現状・展望：市川喜崇，6(1)

大都市制度の概要と課題：北村亘，11(1)

イギリスの地方自治体制度の確立と変遷：石見豊，21(1)

地域保健法成立後20年間の保健所の推移と課題：宇田英典，27(1)

国と地方自治体が担う公衆衛生の機能分担の現状と今後の役割：中田勝己・正林督章，33(1)

【地域保健法成立後の地域の公衆衛生体制の推移と課題】

・地域保健法体制下の地方衛生研究所の現状，課題と将来像：調恒明，37(1)

・大阪府における公衆衛生体制の推移と課題—私史的考察：高山佳洋，43(1)

・北海道における公衆衛生体制の推移と課題—北海道の公衆衛生のあゆみ：山口亮，51(1)

・島根県における公衆衛生体制の推移と課題—保健所と市町村との連携にこだわって：中川昭生，57(1)

イギリスと日本の政治行政制度と公衆衛生体制の類型：金子雅彦，63(1)

◆ 80巻2号「子どもへのがん教育」

がん教育—公衆衛生の立場から知っておくべきこと：衛藤隆，86(2)

がん教育—教育の立場から：植田誠治，91(2)

がん教育—医療の立場から：垣添忠生，97(2)

がん教育の実践と意義：中川恵一・玉利祐樹，103(2)

がん教育—患者会によるいのちの授業：三好綾，111(2)

豊島区における「がんに関する教育」の取り組み：細山貴信，119(2)

小児がんとはがん教育：中川原章，125(2)

◆ 80巻3号「心疾患最前線」

日本における心疾患死亡の現状と動向：綿引信義，158(3)

心筋梗塞の発症登録からみた地域の現状と課題：和根崎真大・渡邊哲・西山悟史・平山敦士・川崎良・深尾彰・久保田功，165(3)

日本人の虚血性心疾患の危険因子と発症予防：今野弘規・磯博康，172(3)

主要な心臓病と内科治療の最新情報：本田泰之・永井利幸・安田聡，179(3)

心臓病の外科治療の最新情報：藤田知之・小林順二郎，187(3)

心臓リハビリテーション：安達仁，193(3)

過重労働と脳・心臓疾患：藤田雅史・上松正朗，198(3)

心疾患予防のための食生活：須賀ひとみ，203(3)

◆ 80巻4号「産業保健のトピックス」

産業保健の最近の動向と新たな課題：圓藤吟史，238(4)

企業健康経営と健康投資：岡田邦夫，243(4)

データヘルス計画に基づく健康な職場づくり：古井祐司，247(4)

地域保健と職域保健の連携促進：柴田英治，251(4)

高齢労働時代の産業保健の課題と展望：神代雅晴，257(4)

産業保健における人間工学の活用—最近の動向と将来性：埜田和史，263(4)

職場のメンタルヘルス対策の新展開—ストレスチェック導入をめぐる議論を含めて：廣尚典，269(4)

障害者・難病患者等の就労支援と産業保健：江口尚，275(4)

福島原発作業者の低線量放射線被ばく影響—研究の意義と展望：岡崎龍史，281(4)

◆ 80巻5号「専門医制度の確立と地域医療」

新しい専門医制度の概要と課題：池田康夫，318(5)

総合診療専門医の誕生への期待：吉村博邦，322(5)

“地域医療の確保”と“新専門医制度への対応”の狭間で悩む地方自治体：中俣和幸，328(5)

公衆衛生行政医師の確保と育成—現状と課題：坂元昇，333(5)

社会医学系専門医の制度確立に向けて：社会医学系専門医協議会委員会，339(5)

日本の医学教育改革の現状と課題—国際標準への取り組み：奈良信雄，345(5)

イギリスにおける医師・専門医と公衆衛生医・専門家の資格認定の変遷：高島毛敏雄，351(5)

◆ 80 巻 6 号「難病対策」

日本の難病対策の歴史と新たな難病対策：葛原茂樹，390(6)

小児の難病対策の推進案—新たな小児慢性特定疾病対策：五十嵐隆，401(6)

難病患者の療養生活—地域で尊厳を持って生きることのできる共生社会を目指して：伊藤たてお，406(6)

大阪府保健所における難病保健活動の歩みと現状：上林孝子，412(6)

神経難病と再生医療：土井大輔・高橋淳，419(6)

難病と統合医療：川嶋朗，425(6)

難病対策における疫学研究の現状と課題：中村好一，431(6)

◆ 80 巻 7 号「子どもの貧困と健康」

日本の子どもの貧困の現状：大澤真平・松本伊智朗，462(7)

子どもの貧困と食生活・栄養：村山伸子，470(7)

子どもの「貧困」における多様な心身の発達困難と支援の課題：小野川文子・田部絢子・内藤千尋・高橋智，475(7)

子どもの貧困と口腔疾患：渡部茂，481(7)

女性の貧困と若年出産の現状：佐藤拓代，486(7)

子どもの貧困と児童虐待：奥田晃久・川松亮・桜山豊夫，491(7)

子どもの貧困対策と自治体行政—子どもの貧困対策推進法・生活困窮者自立支援法：湯澤直美，496(7)

生活困窮者への地域での取り組み—POPOLOハウスとフードバンク：鈴木和樹，502(7)

子どもの貧困対策活動—山科醍醐こどものひろばの取り組み：村井琢哉，507(7)

子どもの貧困対策活動—居場所をつくる児童館の取り組み：荘保共子，511(7)

◆ 80 巻 8 号「地域包括ケアの進化」

地域包括ケアシステムの進化の経緯と将来像：田中滋，550(8)

「まちづくり」としての地域包括ケア：東内京一，557(8)

地域包括ケアシステムと地域医療構想—医療経済・政策学の視点から：二木立，562(8)

日本版 CCRC は地域包括ケアの発展型となりうるか：辻一郎，567(8)

地域包括ケアとエンドオブライフケア：岩尾總一郎，573(8)

地域包括ケアと介護予防—地域づくりの視点から：柳尚夫，579(8)

地域包括ケアシステム構築に向けた地域ケア会議の意義と実際：江藤修，584(8)

地域包括ケアと認知症施策：山口晴保，590(8)

医療連携・在宅ケアの推進に向けた ICT 活用とその進化：松本武浩，596(8)

◆ 80 巻 9 号「災害時の公衆衛生活動」

日本の災害対策の到達点と今後の課題：河田恵昭，630(9)

大規模災害時の公衆衛生活動と被災地支援の到達点：金谷泰宏・鶴和美穂，636(9)

都道府県における災害時の公衆衛生支援体制づくりの現状と課題：田上豊資，643(9)

地域における災害時の救急医療体制整備の現状と今後の展望—阪神・淡路大震災以降の経緯も踏まえて：山本光昭，648(9)

災害時の精神保健医療活動—熊本地震を踏まえて：加藤寛，653(9)

災害時の保健師の健康支援活動の発展と現在の課題：奥田博子，658(9)

大分県における DHEAT の創設と試行的派遣の経験から：藤内修二，664(9)

岩手県沿岸被災地・応急仮設住宅の現状と今後の街づくりの課題：久保慶祐，670(9)

原子力災害時の被災者の健康支援と保健医療活動：明石真言・相良雅史，677(9)

2015 年 9 月関東・東北豪雨の被災者健康支援活動：本多めぐみ，684(9)

◆ 80 巻 10 号「包括的な糖尿病対策」

糖尿病のリスク・予防要因：後藤温・津金昌一郎，718(10)

世界の糖尿病の現状と対策：公益社団法人日本糖尿病協会，727(10)

米国の糖尿病対策：内潟安子，734(10)

血糖モニターと糖尿病の療養指導—その変遷と今後への展望：西村理明・池田義雄，737(10)

栄養学からみた糖尿病—エネルギー制限と糖質制限：江部康二，743(10)

エビデンスに基づく運動療法：佐藤祐造・酒井映子，749(10)

2 型糖尿病の発症抑制・早期治療介入へ：河盛隆造，755(10)

足立区糖尿病対策アクションプラン—「あだちベジタ

ベライフ～そうだ、野菜を食べよう～」の取り組み：馬場優子，761(10)

◆ 80 卷 11 号「精神保健医療福祉の改革」

精神保健医療福祉の改革ビジョンの成果と今後の課題：竹島正・立森久照・高橋邦彦・山之内芳雄，790(11)

精神保健医療における地域連携促進に向けた改革：伊藤弘人，797(11)

精神保健福祉法改正後の保健所の役割と課題：中原由美，805(11)

最近の制度改革や課題に対応した精神保健福祉センターの役割：白川教人・原田豊・田辺等，813(11)

アウトリーチ支援の実践による精神保健医療福祉改革：野口正行，819(11)

医療保護入院の要件と精神障害者の権利擁護：山本輝之，825(11)

精神障害者の雇用・就労をめぐる課題：田川精二，831(11)

発達障害児支援をめぐる課題と改革の方向性：本田秀夫，837(11)

医療観察法の地域精神保健医療への影響と課題：村田昌彦，843(11)

◆ 80 卷 12 号「行政保健師の質の保証—卒後教育・CPD」

日本の行政保健師の役割と課題：曾根智史，878(12)
行政保健師に求められる健康政策能力の涵養の現状と課題：佐伯和子，883(12)

行政保健師の卒後教育と CPD 体制の現状と展望：岡本玲子，889(12)

自治体における統括保健師の配置の状況と役割の発揮—行政政策に関わる後輩につなぐ：中板育美，894(12)

日本最北公立保健師教育養成施設における卒前・卒後教育の現状と課題：播本雅津子，903(12)

岩手県における保健師活動と保健師教育の現状と課題：鈴木るり子，909(12)

大阪市保健師の専門性の維持と向上，および活動形態の変遷：藪本初音，917(12)

結核対策を支える保健師教育・研修制度の歴史と現在の課題：小林典子，923(12)

英国における保健師の卒前教育と卒後教育・CPD の現状と課題：岩本里織，929(12)

特別寄稿

熊本地震における公衆衛生活動——DHEAT 先行事例報告と今後の課題—佐賀県による阿蘇保健所への

支援活動とその後の議論を通して：中里栄介，689(9)

視 点

保健所に求められる法や社会保障制度の大きな変化への対応：柳尚夫，2(1)

人がつくる公衆衛生：池田和功，82(2)

なかなかいいぞ公衆衛生：田原なるみ，154(3)

Health in All Policies を発信する保健所を目指す：星子美智子，234(4)

タバコをめぐる最近の話題：加治正行，314(5)

公衆衛生医師の確保・育成と専門性の担保——政令指定都市の試み：甲田伸一，386(6)

保健所に求められるこれからの感染症対策：中里栄介，458(7)

健康の社会経済的決定要因と健康づくり施策：福島靖正，546(8)

社会状況の変化のなかで期待される公衆衛生行政の役割：野原勝，626(9)

災害の公衆衛生，原子力災害の公衆衛生：安村誠司，714(10)

男性保健師が来る?!：国吉秀樹，786(11)

大阪版健康・栄養調査：結果を公表したところ…：上家和田子，874(12)

投稿・資料

電離放射線障害防止規則の改正：前田光哉，293(4)

受刑者における死因の分析：大島明・松川敦紀・小川敦史・石川匠・大西陽之，523(7)

投稿・地域事情

英国における風力発電を取り巻く実状——HIA (Health Impact Assessment) に着目して：森松嘉孝・久保達彦・藤野善久・原邦夫・石竹達也，527(7)

連 載

◆ いま，世界では!? 公衆衛生の新しい流れ

これからのグローバルな NCD 予防を考える：長谷川みゆき・磯博康，212(3)

グローバル化と産業保健：川上剛・佐野友美，287(4)

日本のグローバルヘルス人材：中谷比呂樹，362(5)

世界の子どもの貧困と健康——貧困が生み出す格差の健康影響とその対策：友川幸，519(7)

市民主導の包括医療サービスフレームワークと地域包

括ケアシステム：梶原麻喜，606(8)

◆ リレー連載・列島ランナー 82～93 回

下関市における健康づくり政策一月間テーマ設定，こころん，健康チャレンジ，所作美プロジェクト：長谷川学，67(1)

入浴事故対策は公衆衛生上の大きな課題：松田徹，131(2)

死に逝く人の「孤独」について：高山義浩，217(3)
公衆衛生行政機関でのエビデンスに基づいた施策と事業評価：大類真嗣，299(4)

ブルーオーシャン―“行政のロジック”と“現場のミッション”が交わる県庁の医療行政：伴正海，367(5)

警察で取り扱った自殺未遂者の支援から見えてきたもの―精神保健福祉センターでの事業評価：本屋敷美奈，441(6)

公衆衛生医師と臨床医のはざまで：生野淑子，538(7)

公衆衛生としての死因診断：吉澤秀憲，611(8)

若者よ，公衆衛生を目指せ!!：武智浩之，697(9)

県の立場から母子保健に向き合う―信州母子保健推進センターの設立に関わって：塚田昌大，771(10)

公衆衛生の感染症対策は面白い!：宗陽子，859(11)

これからの保健所を考える：矢野亮佑，939(12)

◆ 衛生行政キーワード 105～112 回

循環器疾患対策：高山啓，208(3)

医師の卒後臨床研修制度の歩みと現状，今後：吉本雅世，357(5)

国における新たな難病対策の方向性：川田裕美，437(6)

地域包括ケアシステムの構築に向けて：佐藤理，602(8)

避難所での高齢者・要介護者へのケア，支援：福本怜，694(9)

糖尿病対策：高山啓，767(10)

地域移行機能強化病棟を活用した精神科病院の構造改革：廣瀬佳恵，849(11)

ハーバードで公衆衛生を学ぶ：松本晴樹，935(12)

◆ [講座] 子どもを取り巻く環境と健康 11～22 回

アトピー性皮膚炎の遺伝要因と環境要因：乃村俊史・清水宏，71(1)

環境化学物質曝露による内分泌系への影響―(1)甲状腺機能：伊藤佐智子・岸玲子，137(2)

環境化学物質曝露による内分泌系への影響―(2)性ホルモン：荒木敦子・伊藤佐智子・岸玲子，221(3)

児の精神神経発達と環境化学物質(1)水銀，農薬，PCB 曝露―東北スタディの成果ほか：龍田希・仲井邦彦，303(4)

児の精神神経発達と環境化学物質(2)ダイオキシン類曝露と児の神経発達：中島そのみ・岸玲子，371(5)

児の精神神経発達と環境化学物質(3)ADHD(注意欠如・多動性障害)とASD(自閉スペクトラム症)：池野多美子・小林澄貴・山崎圭子・西原進吉・岸玲子，445(6)

胎児期の化学物質曝露による後天的な遺伝子発現制御への影響：宮下ちひろ・小林祥子・岸玲子，531(7)

葉酸摂取の胎児発育や先天異常，生後アレルギーへの影響：宮下ちひろ・伊藤久美子・荒木敦子・岸玲子，615(8)

妊娠中のカフェイン摂取の母児への影響：佐田文宏・佐々木成子・岸玲子，701(9)

環境化学物質曝露による先天異常への影響―(1)尿道下裂，停留精巣：三井貴彦，775(10)

環境化学物質曝露による先天異常への影響―(2)先天性疾患，口唇口蓋裂：宮下ちひろ・ホウマヌグウダルジ・岸玲子，863(11)

社会経済要因の影響―(1)死産，早産，出生体重：花岡知之・田村菜穂美・岸玲子，943(12)

◆ ポジデビを探せ!・1～2 回

ポジデビ・アプローチとは何か?：神馬征峰，853(11)

ケース1：ベトナムの栄養改善―コミュニティのエンパワメントとポジデビ：渡辺鋼市郎，949(12)

コラム

◆ 予防と臨床のはざまで：福田洋

健康格差―民医連 T2DMU40Study から学ぶ：76(1)
さんぽ会・名古屋：145(2)

文天シンポジウム―重症化予防：228(3)

第3回国際ヘルスリテラシー学会：268(4)

アドボカシーは変化をもたらす影響(感化)力：379(5)

産業保健のプレゼンス：451(6)

多職種産業保健スタッフが学び合う意義：518(7)

健康と公平性の推進―第22回IUHPEダイジェストその1：572(8)

ヘルスリテラシー関連演題目立つ―第22回IUHPEダイジェストその2：708(9)

最終日にクリチバ宣言を採択―第22回IUHPEダイ

ジェストその3：780(10)
人・組織を変える自分の条件—さんぽ会夏季セミナー
2016：868(11)
病気の相談に思うこと：957(12)

◆ 映画の時間：桜山豊夫

ヴィオレット—ある作家の肖像—：77(1)
愛しき人生のつくりかた：147(2)
火の山のマリア：229(3)
母よ、：309(4)
スポットライト 世紀のスcoop：381(5)
或る終焉：453(6)
シチズンフォー スノーデンの暴露：541(7)
めぐりあう日：610(8)
ティエリー・トグルドーの憂鬱：709(9)
奇蹟がくれた数式：781(10)
ベストセラー 編集者パーキンズに捧ぐ：869(11)
古都：959(12)

◆ 公衆衛生「書評」

武谷雄二 著『働く女性と健康—多様な視点からのヘルスケア』：今村聡，20(1)
福原俊一 編集代表『医療レジリエンス—医学アカデミアの社会的責任』：柴垣有吾，36(1)
新谷歩 著『今日から使える医療統計』香坂 俊，110(2)
谷口清州 監修 吉田真紀子・堀成美 編『感染症疫学ハンドブック』青木眞，135(2)
松田晋哉 著『地域医療構想をどう策定するか』伊関友伸，220(3)
谷口清州 監修 吉田真紀子・堀 成美 編『感染症疫学ハンドブック』井上栄，280(4)

松田晋哉 著『地域医療構想をどう策定するか』井部俊子，350(5)
内海健 著『自閉症スペクトラムの精神病理—星をつぐ人たちのために』徳田裕志，804(11)
中村好一 著『基礎から学ぶ楽しい保健統計』上嶋健治，958(12)

◆ 公衆衛生「書籍紹介」

島崎謙治 著『医療政策を問いなおす—国民皆保険の将来』ちくま新書，62(1)
今泉忠明 著『気をつけろ！ 猛毒生物大図鑑』(全3巻)ミネルヴァ書房，62(1)
入江英美 著『医系技官がみたフランスのエリート教育と医療行政』NTT 出版，149(2)
マーティン・J・ブレイザー 著 山本太郎 訳『失われてゆく、我々の内なる細菌』みすず書房，256(4)
岡崎龍史 著『＜改訂版＞図説 放射線学入門 基礎から学ぶ緊急被曝ガイド』医療科学社，286(4)
二木立 著『地域包括ケアと地域医療連携』勁草書房 2015 年，308(4)
川島隆太 監修 こどもくらぶ 編『脳のひみつにせまる本』(全3巻)ミネルヴァ書房，378(5)
神馬征峰 監修 崎坂香屋子，他 編集『国際協力 トイレ修行学』文芸社，424(6)
二至村菁 著『米軍医が見た占領下京都の 600 日』藤原書店，683(9)
小椋力 著『沖縄の精神医療』(シリーズ 精神医学の知と技)中山書店，848(11)
岸-金堂玲子・森岡孝二 編著『健康・安全で働き甲斐のある職場をつくる—日本学術会議の提言を実効あるものに』ミネルヴァ書房，942(12)